

管理部

平成31年度 JA全農福島広報活動の取り組み

JA全農福島では、平成31年度も「食と農」を基軸とした県産農畜産物の広報強化と、地産地消の消費拡大対策に努めます。TVやラジオ・WEBを活用した様々な企画をお送りしますので、ぜひご覧ください。

福島テレビ (FTV)
『サタふく』土曜日昼放送
新企画「野菜ソムリエへの道」
2年間にわたり農業体験をしてきたFTV伊藤アナウンサーが、福島の農産物をマスターするために「野菜ソムリエ」の資格取得を目指しながら、視聴者の皆さんに農業の魅力を伝えます。



福島放送 (KFB)
『ふっくんしまちゃん天気予報』
月～金曜日 (18:45 前後)
県内各地の農業者を中心にご紹介します。
[放送予定] 毎週木曜日 18:45 前後
第1週: JA ふくしま未来
第2週: JA 福島さくら
第3週: JA 夢みなみ
第4週: JA 会津よつば
第5週: JA 東西しらかわ
旬の農産物が当たる視聴者プレゼントも実施中です。ぜひご覧ください!



ふくしま FM
新番組
『JA全農福島インフォメーション』
毎月最終木曜日放送 (17:35 前後)
JA全農福島より、JA農産物直売所「愛情館」のイベント情報や、そのほか様々な旬の情報をお届けします。
ぜひお聴きください! **ふくしまFM**



福島中央テレビ (FCT)
『ゴジてれ Chu!』月～土曜日放送
人気コーナー「I LOVE キッチン」で、旬の農産物を使用した美味しいレシピをご紹介します。初回は旬の「アスパラガス」を使ったレシピを5/20(月)～5/24(金)に放送します。(年4回、隔月にて放送予定)



テレビユー福島 (TUF)
『げっくんチェック・旬の農産物』
毎月最終木曜日 (9:55 ~)
放送4年目に突入!
旬の農産物と、JA女性部の皆さんによるおすすめレシピをご紹介します。
視聴者プレゼントも実施中です。



ラジオ福島 (RFC)
月～土曜日 (12:00 ~)
『グリーンメロディ』
リスナープレゼントや、青果物市況、農業新聞からの最新情報をお届け!
月曜日 (12:20 ~)
『ふくしま旬の恵みに乾杯』
キリンビール(株)との2社共同番組。福島県産の旬な農畜産物で作る美味しいレシピと、それに合う最高のキリンビール商品をご紹介します。



WEB サイト企画
『JA全農福島 presents ふくらボ! 企画』
福島県のタウン情報サイト「ふくらボ!」に、JA全農福島から、県産農畜産物をテーマとした多様な企画をお届けします。
★農ガールコレクション 新シリーズが掲載スタート!「全農ガール」
★料理教室企画 「ママ必見作り置き!野菜たっぷり常備菜」
★参加型企画 「親子で楽しむ、菌床しいたけイノベーションセンター見学ツアー」
★募集企画 「ふっくんしまちゃんぬり絵コンテスト」
「季節は旬野菜!あなたの才能開花させよ!野菜俳句コンテスト」
順次公開となりますので、ぜひ「ふくらボ!」で検索を!!



管理部

JA全農福島職員全体集会

平成31年度事業計画実践キックオフ大会 結集

JA全農福島は、4月13日(土)、福島市のJA福島ビルで「JA全農福島職員全体集会」を開催しました。震災復興に向けて始まった全体集會も早いもので8回目を迎え、県本部職員と来賓合わせて計152名が一堂に会しました。

冒頭、県本部運営委員会の結城政美副会長が「農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化を進めてほしい。」と職員を激励しました。

続いて県本部長メッセージと表彰が行われました。30年勤続表彰2名、20年勤続表彰3名、特別表彰には消費地販売部、生産資材部肥料農薬課、福島営農事業所・小柳温子職員が選ばれ、賞状と記念品が贈呈されました。

午前の部の最後は、安田忠孝常務より講話をいただき、全常務より講話をいただき、全力を結集で挑戦し、未来を創るに込めたメッセージをお話いただきました。

午後の記念講演では、(株)ライフ・アンド・シード中野美加代表取締役より「チーム力を向上させる自立・自律型人材育成法」をお話いただきました。



▲猪股県本部長による目入れ 職員一丸となつてがんばろう三唱! ▼



その後、園芸部・長谷川泰士職員による決意表明、安田常務・猪股孝二県本部長・長谷川職員による、30年度事業達成と31年度の新たな目標に向けたダルマの目入れが行われました。そして最後には、職員労働組合新田孝光委員長の掛け声による、職員全員での「頑張ろう三唱」で、会を締めくくりました。

全体集會には、今年度の新卒採用職員10名も参加し、意気込みを語ってくれました。だるまに記されたJA全農福島のテーマは、結集。平成31年度も役員一丸となつて事業を展開してまいります。

今月の営農情報

園芸部

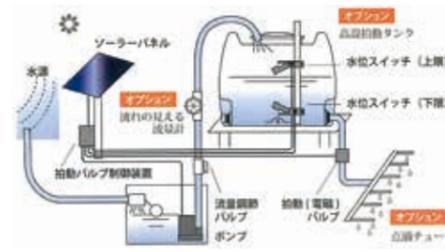
水の有効活用

ソーラー自動灌水で作物の品質・収量アップ、省力化を目指しませんか?

作物の栽培に欠かせない「水の管理」
「理想の灌水方法」として

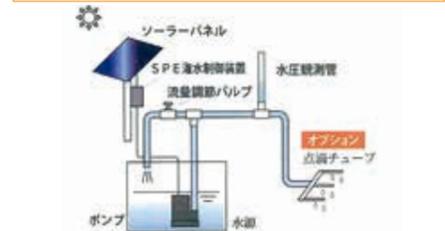
- ・ 灌水量を設定できる灌水装置の利用
 - ・ 少量多頻度回数
 - ・ 日照量を基準に灌水量を決定
 - ・ 根の分布量に応じて灌水等があげられます。
- 近年は異常気象で、灌水の重要性が再確認されていますが、自動灌水装置利用で、品質・収量アップ、さらには省力化を目指しませんか。
- そこで、ソーラー発電を利用した「ソーラー自動灌水システム」をご紹介します。

高設タンク設置型の仕組み



- 拍動式自動灌水システム
- 日射の強さが一定以上ある間ポンプは揚水を続け、高設タンクに水が一定量溜まると一気に広範囲に灌水
 - 比較的大きな圃場面積に対応できる

高設タンク不要型の仕組み



- 蓄電池式自動灌水システム
- 高所へタンクを設置する必要がない
 - 比較的コストで導入できる
 - シンプルなシステム構成で故障しにくい
 - 灌水面積は5アール程度 (最大15アール程度まで)

この装置は、ソーラー発電で水源からタンクに水をくみ上げ、落差による圧力で点滴チューブから水を流すという灌水システムで、

- ・ 配線をつなぐだけで組み立てられ
- ・ 日照量に応じて点滴チューブからゆっくりに灌水施肥で流亡し少なく
- ・ 電源はソーラーパネルを利用した太陽電池のみ

となっております。圃場の条件により、高設タンク設置・不要型があります。

自動灌水装置設置の詳細はJA全農福島園芸資材課までお問合せ下さい。